

参加者の感想

■ 秋山 心音

○実技：自己分析

今回は、主審 1 試合・副審 2 試合・4th6 試合を務めさせていただきました。まず初めに、立て続けに研修会があったことで、自分自身のコンディションを整えることが出来ず、頂いていた割当をやりきれなかったことや納得のいくレフェリングが出来なかったこと、深く反省しております。

今回の研修会では、これからシーズンを控えた選手達が参加するフェスティバルということで、いつも以上に「安全性」を意識して取り組みました。そのため危険なプレーが予測される場面での声掛けや負傷者への気遣いなどといった点では、自分なりに工夫して取り組めたと思います。しかし、打ち合わせをする時間が十分に確保できない試合での主審の援助を怠ってしまった場面がいくつかありました。今後このようなことが起こった際には、我々審判員は「選手のため」にいるという気持ちを一番に持つことで、より良い判断に近づくことが出来ると感じました。

○実技：インストラクターからのアドバイス

選手交代時にレフェリーチームの協力をもう少し工夫することで、選手のプレー時間を確保するべきである。試合終了間際に PK を取った場面の状況を、自分の中でしっかりと整理し言語化できたことは非常に良かったが、笛の質にはこだわっても良かった場面であった。全体を通して選手やベンチへの声掛けがあり、選手への気遣いを感じられた。

○研修会の感想

今回の研修会を通して各地区のユース審判員と共に活動できたこと、また北海道 RAC の先輩審判員や多くのインストラクターの方々から沢山のアドバイスを頂けたこと、非常に嬉しく感じます。普段は大人の審判員の方々にサポートしていただきながら試合を進めていたところを、今回はユース審判員のみでという点では、いつも以上に強い責任感を持って取り組めたと思います。そして自地区のみの活動では中々会うことの出来ない多くの同年代審判員たちとこのような研修会を通して交流を深めることで、お互い今後の活動への支えとなった気がします。

この研修会に参加し、今まで以上に“選手のために”という意識が強くなりました。今後も選手 first の気持ちや私がサッカーに関わり続けることができることへの喜びを忘れることなく、感謝の気持ちを持って審判活動に取り組んでいきたいと思っております。

この度は大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



■ 鈴木 辰汰

○実技：自己分析

久しぶりのサッカーの審判で最初は判定の部分や感覚の部分になまっていて、シーズン中の状態には程遠い状態だったのですが、試合を重ねていくにつれて徐々に良くなっていった所はこれからシーズンインに向けて良かった所だと思います。他にもフィジカル的な部分では現役のプレイヤーとして強みにしていくものだと改めて感じました。ですが、判定の部分で自信をもって吹くことができず、試合も荒れ、自分のメンタルもゲームの中で立て直すことができず終了したということがあり、その判定の根拠や自信、メンタルの保ち方はこれから2級上申に向けての自分の今後の課題だと感じることができました。

○実技：インストラクターからのアドバイス

今回は沢山のINSの方がこの研修会に参加しており、様々な視点から沢山のアドバイスを頂きました。その内容は、サイドを追っていった時にクロスが上がる瞬間に中に入っていき動き、シグナルを立ち止まって行う丁寧さ(慣れから流れ作業になった場面もあったため)、選手への声掛けの部分で何度も繰り返し伝えていて少し高圧的に見えてしまう、肩に力が入っているように見えて少し見栄えが悪い。このようなアドバイスをこれからの審判活動に活かしていきたいです。

○研修会の感想

まず、今回の研修会に関わっていただいた全ての人に、このような貴重な研修会を行って頂きありがとうございました。自分は初めて今回コースの研修会に参加して、同世代の審判員のレフェリングや活動内容を聞いたり見たりする貴重な時間は、自分の審判活動に非常に刺激になる機会でした。特に、全日小の全国大会に参加した2級審判員は、すべての面において刺激となりました。他にも北海道のレフェリーアカデミー生の講義では、現場の生の声を聴くことができ、トップレベルへの憧れがさらに強くなる、とてもいい研修会でした。自分は今年度中の2級上申を目指している中で、今回の研修会での経験を生かして自分の目標に向けて活動していこうと思いました。



■ 阿部 拓歩

○実技：自己分析

主審では、ほかの審判員とアイコンタクトをとったり、時には声をかけたりしてコミュニケーションが取れていたのはよかったと感じました。ポジショニングが悪く串刺しになっていたことや、争点から遠い位置にいたことは改善が必要だと感じました。

副審では、争点とオフサイドラインを見ようとすると、どちらかが疎かになってしまうことを改善する必要があると感じました。また、オフサイドラインに気を取られて選手がシュートを打った時の反応が遅れていたことも改善する必要があると感じました。

四審では、交代のタイミングを試合の場面（コーナーキックやフリーキック）などを考慮して交代の手続きをすることが大切だと感じました。

○実技：インストラクターからのアドバイス

- SPA 時のイエローカードを躊躇せずに出せたことがよかった
- イエローカードを出すときにクイックリスタートの可能性がないのであればプレーを止める
- シグナルをしてからすぐに手を下ろさず少しの間、上げたままにする
- フリーキックなどの時の立ち位置
- 争点から遠い位置にいたことがあった
- ベンチや交代などにも気を配っていたことがよかった

○研修会の感想

北海道 RAC（3期生）による講話では、レフェリーアカデミーについて、アサーティブなどについて学ぶことができました。特に、選手の主張を受け止めて選手に自分の主張を伝えることは、これから審判活動をしていくうえでとても大切なことだと思いました。その後の講義で行ったディスカッションでは、ほかの参加者がどのような考えを持っているか知ることができました。しかし、自分の意見を積極的に伝えることができなかつたので、自信をもって積極的に自分の意見を伝えられるようになりたいと思いました。

今回の研修会で学んだことを、今後の審判活動に生かしていきたいと思います。このような機会を設けていただきありがとうございました。

